

## 平成 27 年度まちづくり懇談会会議録【横地地区】

日 時 平成 27 年 11 月 24 日（火） 19：00～20：15  
会 場 横地地区センター  
参加者 35 人

※「今後のまちづくりについて ～人口減少社会への対応～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

### 「①菊川市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」についての所感・ご意見

#### ●地区自治会長

市長が説明した基本目標と数値目標で贅沢な自然環境と夢ある希望と生きがいのあるまちの中から働く場の出会いがあるまちというところがあります。その右に I ターン U ターン、そういったものでやっていますよということだと思います。

今、そちらに座っている職員の方の子どもさんで菊川市に住んでいて菊川の企業に就職されている方って何人ぐらいいるのでしょうか。多分あなたたちの子どもさんは大学を出て、東京とか大阪とか大都市に就職をされているのではないのでしょうか。そちらにいる方の家庭でもそうだと思いますが、やはり子どもは大学に行かせたい。親としては誰よりもいい地位に上がってもらいたいという希望を持っているわけですよね。そういう中で、大学に進学をすると菊川に戻ってきてどういうところに就職があるのですか。例えばキャタラー工業に行くのであれば、キャタラーさんは今海外要員しか採用しませんよね。NOKさんは、東京都の三田で就職試験を受けてどこに配属されるか分からない。御前崎ですか？小笠ですか？と聞いたら、全国何処に行くか分かりませんという回答がありました。こういった大企業に就職をするために大学に行った人たちは、菊川市で就職をしようとしたときに、いったい何処に市としては就職をさせようと考えているのですか。あくまで机上計算でこんなことを書いているのではないんですか。自分たちの子どもさんが、菊川市の大企業や中小企業で就職をさせられますか。そこができていないのに、皆に I ターンがあるよ、U ターンがあるよと言っても分からないと思うんですよ。自分の子どももやっぱり菊川市で就職をさせようと思いました。でも、なかった。やっぱり大学を出てそのまま都会で就職をしている。菊川市にそういう会社ってあるんでしょうか。

そこがないと住民は増えないんじゃないですか。人が増えるから子どもが生まれる可能性がありますよね。だから、子どもが生まれるための住民を増やすことが先決なのかどうか二の次にして、まず、定住しないものがどうやって人を増やすことができるのか。住みやすいまちって言うてもそれはあくまで机上計算の統計か何かでしようけども、現実菊川市がよそのまちより増えているかといったら、増えてないじゃないですか。特産物だって菊川市には何があるんですか。大須賀町、大東町には石川小芋やキャロットがありますが、いちごがありメロンがあり、お茶がありというのは、掛川だって御前崎だって浜岡だって、みんな同じですよ。何に特色を持たせるかというのが聞きたい。

### ○企画財政部長からの回答

私には娘と息子がおります。残念ながら娘は名古屋に行っています。息子は、市内の企業に勤めています。うちは5割です。この総合戦略を作るに当たりまして、この総合戦略の大きな目的というのが、人口の減少をいかに食い止めて、置換水準というのがあるんですが、そのところまで合計特殊出生率を持って行って、人口を安定させるというところが最終的な目的になっていまして、そのためには、その人口の減少を食い止めるためには何が必要かといいますと、ひとつにはやはり出生の数を増やすあるいは、一定のところを維持する、この目標のつけ方におきましては、現在子どもさんを持っているお母さん方にアンケートを取ったところ、実際に望んでいる子どもの数というのですが、今現在の子どもの数の1.24倍だったんです。子どもの出生の数を1.24倍に増やしたいというのが、まず自然増の目標の数字です。それから社会増、いわゆる転入転出の増ですが、これについては、転出しているのは若い転出が多いのですが、転出を3割抑制したい。というのが目標の設定の数字。目標を持った根拠です。この生まれる子どもさんを1.24倍にして、転出を3割抑制すると、2060年に3万6,000人の人口が維持できるということで、目標とさせていただきました。

若い人たちの働く場所ですが、やはり転出を抑制していくということ、もう一つ先ほどからお話をしております、人口構成が変化をしていって、生産年齢人口がぐっと縮まってくるんです。そうするとやはり女性の皆さんですとか、例えば一度リタイアされた高齢者の皆さんもまだ働きたいという方もおられるでしょうから、そういう方々の働く場所を作らなくちゃいけないということ。

それからもう一つは、やはり都会に出て行った人たち、あるいは都会の人たちを、こちらに帰っていただける、そういった魅力のある職場を作っていくなくてはならない、こういうふうに思っています。それが、具体的になんだと言われますとまだそこまでは考えておりませんが、それをやらない限り、やはり若い人たちが出て行くということは、人口の減少に繋がってしまうとい

うことで、そういう計画を立てさせていただきました。

それから、最近の数字なんですけど、おかげさまで、菊川市は転入転出だけを見ても、平成23年以降は、転入のかたの方が多いんです。社会的には人口増加してるんですね。年間に30人から100人とそんなに大きな数字ではないんですけども。今年に入っても、毎年3月はやはり学生さんが都会に出ちゃって転入してくる方よりも転出していく市民の方が多いんですが、今年の3月は転出の方が多かったんですが、4月以降はずっと転入のほうが月別に見ても多いんですね。そうするとそういうところをなぜかと分析をしてみますと、やはり30代ぐらいの男の人、女の人もいるんですが、その辺の方が転入をされているということで、おそらく私たちが考えるのが、市内の企業に転勤とかでこちらに入ってもらえる方が多いんじゃないかと思ってるんですが、その辺の状況ももう少し分析をしまして若い人たちがどうしたら戻ってきってくれるんだろうかということ、やはり大きな課題だと思ってるので、今後、さらに分析をして研究していきたいと思っております。

### ●地区自治会長

今の回答の中で、労働人口を増やすっていうことがひとつありましたね。それから出生率を上げるという話もありましたけれども、出生率を上げるっていうのはあくまでも、アンケートの上での希望ですよ。現実には増えてないから、人口が減っているんじゃないですか。例えば静岡空港を作るときに、100万人年間利用者があるから作るんだという計画があって作ったわけですよ。実際には40万とか50万しか乗らなかった。ただ中国の景気がよかったから現在は増えているんだけどね。要するに市役所という公共機関というのは、あるひとつの枠にあてはめるための資料をいっぱい作っているだけで、現実には1.24倍の出生率を目指すって希望しているんだらいい。生んでないって事は希望と現実とは違うのではないですかということがひとつ。

それから、労働人口が減っていくというのは当然出生率が低いし、県外に出る人が多いから。その労働人口を増やすというのは、今から15年とか16年かけてやることであって、今どうこうできるものではない。当然流入をさせることを考えなくてはいけない。たまたまフジオーゼックスさんなどは景気がいいから人をたくさん雇っているし、だから増えている可能性もある。旭テックさんなどは逆に景気が悪いから人は減っている。たまたま矢崎さんが榛原で一昨年かな？舞坂からだいぶたくさん人が入ってきた。掛川の駅の東側までは通勤を認めるということで、掛川の駅東から菊川までの人口は増えてますよね。だからそういう特殊事情があるんであって、流入が増えるんだら毎年毎年増えればいいんであって、さっきの70年後は30人が40人がとずーと増やして

いけばそこで増えていくんですよね。そういうことが盛込まれていないんじゃないですか。あくまでも机上計算だけでは無理だと思う。

#### ○企画財政部長からの回答

私どもは、人口減少に歯止めをかける。あるいは人口減少社会にどう対応していくかというのは、やはり大きくふたつだと思っております。ひとつは、子育て支援を充実させて子どもさんを産み育てやすい環境を作るということ。もうひとつは、産業の振興を図って、働く場所を作って、働きたい方が働ける。あるいは都会に行った方が帰ってくる。こういった産業振興を図る。この二つが大きな柱だと思っております。

その一つ目が、抜群な子育て環境で家族が幸せに暮らせるまち。二つ目が贅沢な自然環境、夢ある仕事、生きがいのあるまちということで、その下に事業を組まさせていただいております。会長さんがおっしゃるとおり、短い時間で解決できる問題ではございません。この総合戦略自体は、5年間の計画になっておりますけれども、人口ビジョンは2060年ですので、45年後の人口を目標に、これは5年やって終わりじゃありませんので、5年終わったら次の戦略を考えていくということになりますので、長いスパンで考えていかなくてはならないと私どもも考えております。

### 「②菊川市の公共施設のこれから」についての所感・ご意見

#### ●地区自治会長

公共施設の件ですが、今菊川市全体の話がされたんですけれども、横地地区に関係するものを少し何か説明していただけると。地区センターとか小学校とか、何かありませんか。

#### ○財政課長からの回答

先ほど申し上げた、まず来年度市全体の施設の方向性を定める総合管理計画を作る予定です。その後個別にいろんな分野でそれぞれの計画を作っていくという予定ですので、今のところで具体的に施設をどうこうするという具体的なところまではいっておりません。

#### ●地区自治会長

具体化されるのはいつになるんですか

#### ○財政課長からの回答

来年総合計画を立てますので、その後に個別の計画をそれぞれの分野で作っていきますので、計画はできれば2～3年のうちに作っていきたいと思っています。

#### ●地区自治会長

要するに5年計画の中の2～3年後というのは、中間ぐらいで細目が出てくるといことで、残りの2年とかで実行していくということですね。

#### ○財政課長からの回答

5年というのは地方創生の計画でして、これは、また別の話になります。

#### ●地区自治会長

公共施設は、どれぐらいのスパンで建替えるというのは出てこないんでしょうか。

#### ○財政課長からの回答

公共施設等総合管理計画は30年のスパンで考えられています。この計画は2～3年でつくります。

#### ●三沢・男性

人口の話になりますが、先ほど子育て環境を充実させることが重要だとお話がありましたが、私も大賛成ですが、そのときに考えていかななくてはならないのが、例えば若い人が子どもが1人いて、どこのまちに定住しようかと考えたときにやっぱり、スピード感を持ってきちっとよその市町と差別化をしていかないと、ここに決めようというものもなくなってしまおうと思うんですよね。5年の計画の中で、もたもたしているとよその市町も同じように計画の中で、やはり子育て環境を充実させようということやるといことになりますから、結果的にはどこの市町に住んでも大差ないという判断になると思う。せつかく、子どもさんがいて通勤範囲の会社があるのなら、この際菊川市がずば抜けている、このサービスが非常にいいとか、目玉サービスとか斬新なサービスを思い切ってやっていたかかないと、負けてしまおうんではないかと私は思います。これは、そういったところを考えてもらいたいという要望です。

## ●奥横地・男性

例えば水害が発生した場合、その時に避難というと公共施設の中の地区センターがあるわけですよね。これは、老朽化が進んでいるとかというのは、何年に1度確認をするわけでしょうか。それと、施設の建物の中は、どんな状況で市の方に入っているのか、その点も確認したいと思います。そのほかにも施設はあると思うんですが、菊川市全体の避難所の公共施設は、地区センターを利用しているのが多いのでしょうか。それとも地元の公会堂を使っているのが多いのでしょうか。

## ○教育文化部長からの回答

答えが一致するか分かりませんが、教育委員会では、小学校、中学校などを管理させていただいております。例えば学校の体育館は避難場所になっているものですから、非常に重要な施設でありますし、校舎についても同じです。学校の安全性ということでお答えさせていただきますと、昭和56年に新しい建築基準法になりまして、それより古い時期に建てられたものについては、耐震性を確認するように指導を受けております。そういった中で昭和56年以前の小中学校の体育館や校舎については、耐震診断を行っております。どれだけ耐震力があるのかということを確認しております。どれだけあればいいかということですが、これは文部科学省の基準ですが、 $I_s$  値というのがありまして、それが0.7を下回っている場合は補強してくださいよ。0.3に達して危ないから建替えた方がいいですよというのが、基準としてあります。市内の小中学校につきましては、耐震診断をして0.7を下回っていた学校、例えば六郷小学校の一番古い学校だったり、河城小学校の古い学校だったり、こういうものはすべて0.7以上しております。

では、いくつあればいいかという話になりますと、静岡県の基準から考えると、1.0ぐらいあればいいよということになっていまして、0.7と1.0の間にある建物があります。その中に、地元の横地小学校も0.7をちょっと上回っている数字で入っております。これは、文部省の基準よりさらに安全性を高めなければいけないということで考えております。先ほどの公共施設の長寿命化についてどう考えているかということがあったんですが、横地小学校については、来年ではありませんが最優先で耐震を向上させる工事にかかりたいと思っております。それと合わせて、耐震力だけでなく校舎も大分傷んできているものですから、長寿命化ということも兼ねて大規模改修をやっていきたいと考えています。これは横地小学校だけではなく、市内小学校中学校全部で12あるものですから、一度にはできませんので、優先度を持ちながら少しずつ耐震性を高めて、さらに安全性を高めていきたいというふうに考えております。

●奥横地・男性

例えば大きな災害があったときに、避難していたときにその建物が大丈夫かというのは、それは分からないわけですよ。もし地震が発生した、皆さんが非難してそこに行った、ところが建物が崩壊して壊れた、そういうことも近い将来にはあると思うのですが、そんなことも住民の不安はたくさんあるわけですので、その点をお願いしたいと思います。

○教育文化部長から回答

少し私の所管からは外れますが、私は建築を勉強してきましたので話させていただきます。地震があったときには、応急危険度判定士という建築の免許を持った方がおられて、例えばこの公共施設が地震があったあと大丈夫かというのを建築士の中で研修を受けた方が現場を見て判断をするということになっています。精密な検査はできないんですが、例えばこういうひび割れは危険だよとかいうのはマニュアルにあるものですから、そういうのを見てこれは皆が避難してくるんじゃないよとか、これだったら大丈夫だよというような応急的な判断はさせていただいた上で避難所として使うかどうかの判断はすることになっています。

●奥横地・男性

人口減少に関することなんですが、農業については女性も進出した方がいいんじゃないかと先ほどお話がありましたが、御前崎の方ではオーナー農園といって市外や県外からそういう場所が提供できるということで、ここへ住んでみようという方もいらっしゃると思うんですよ。菊川市ではオーナー農園だとか貸し出しだとかそういうものはやってないんですか。浜松ではそういうのが、いくつかあるもんですから。

○建設経済部長からの回答

西方の方で、先ほどのオーナー農園があるという話を聞いたことはあります。

○総務部長からの回答

地区センターに関してですが、横地地区センターは耐震上ただちに建替えが必要だという状態にはありません。ただし、この横地地区センターは昭和58年度に造られた建物でして、旧菊川町の地区センターのほとんどが昭和50年代に建てられていて、かなり老朽化が進んでいることは認識しておりますので、先ほど財政課長からも説明がありましたとおり、公共施設等総合管理計画を来年

作りまして、大きな方針を決めますので、それに基づきまして今後地区センターについてはどういった大規模修繕をしていくのか改修をしていくのか、そういったことを含めて検討していきたいと考えております。

(閉会 20 : 15)